

【日本遺産検定3級公式テキスト】訂正箇所

- ① No.16 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～ が抜け、No.105 北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～が入りました。No.105については、裏面に掲載しています。
- ② 以下のように誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

頁	No	遺産名	箇所	誤	正
9	099	京都と大津を繋ぐ希望の水路 琵琶湖疎水	日本遺産名	琵琶湖疎水	琵琶湖疎水
9	102	もう、すべらせない!!	日本遺産サブタイトル名	瀧田古道	龍田古道
20	010	丹波篠山デカンショ節	タイトル上「三朝」のルビ	みさき	みさき
40	041	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田	「1 足袋づくりの始まり」1行目	明利根川・荒川	利根川・荒川
43	047	「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅	本文 下から8行目「顯國神社」のルビ	けんこん	けんこく
44	048	日が沈む聖地出雲	タイトル上、テーマ	歴史／産業・信仰	歴史／信仰
44	048	日が沈む聖地出雲	「日本遺産指定の背景」5行目「日沉宮」のルビ	ひしずみのみや	ひしずみのみや
63	076	中世に出逢えるまち	「2 隆盛の要因」4行目	崇高上皇	崇光上皇
72	093	レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」	「1 信州の学海」3行目「北向観音堂」のルビ	きたむかい	きたむき
91	005	海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群	「4 針畑越え - 最古の鯖街道の歴史的景観 -」下から5行目「朽木」のルビ	くつき	くつき
108	020	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』	「日本遺産指定の背景」4行目「月山」のルビ	つきやま	がっさん
114	023	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」	「日本遺産指定の背景」最終文	未来を開いた1本の水路は……受け継がれています。	削除
118	028	木曾路はすべて山の中	タイトル上 所在自治体	長野県(南木曾町・大桑村・上松町・木曾町・木祖村・玉滝村・塩尻市)	長野県(南木曾町・大桑村・上松町・木曾町・木祖村・王滝村・塩尻市)、岐阜県(中津川市)
138	042	忍びの里 伊賀・甲賀	タイトル上 所在自治体	三重県(甲賀市)・滋賀県(伊賀市)	滋賀県(甲賀市)・三重県(伊賀市)
138	042	忍びの里 伊賀・甲賀	「日本遺産指定の背景」5行目「甲賀」のルビ	こうが	こうか
139	042	忍びの里 伊賀・甲賀	「3 地域の平和を守った忍者たち」1行目「甲賀衆」のルビ	こうがしゅう	こうかしゅう
190	080	知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島	「日本遺産指定の背景」1行目「備讃諸島」のルビ	びせん	びさん
212	095	京都と大津を繋ぐ希望の水路 琵琶湖疎水	タイトル	琵琶湖疎水	琵琶湖疎水
236			索引ページ 左列 下から13行目	みさきおんせん	みさきおんせん

北海道の『心臓』と 呼ばれたまち・小樽

～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

日本遺産指定の背景

かつて小説家・小林多喜二が「北海道の『心臓』みたいな都会である」と表し、日本の近代化を支え「北日本随一の都市」であった小樽。

現在は、全国有数の観光都市となっていますが、高度経済成長期の中で「斜陽のまち」と呼ばれ、沈みかけた時期がありました。その時、歴史的な遺産を守り、さらに活用しながらまちの再生を模索した小樽市民がいました。小樽では明治から、まちの発展とともに未来の成功を夢見て小樽にきた漁夫、商人、船乗りなど多種多様な人々、さらに財を成した資本家たちによる「民の力」で自らまちをつくり上げてきた歴史がありました。

小樽の黎明期から脈々と流れてきた「民の力」によって、元気を失った北海道の心臓は新たな鼓動を始めます。これはまちの衰退を「民の力」によって、遺産の保存と活用をまちづくりに生かし続ける人たちの物語です。



小樽運河

物流拠点となった小樽には、卸商や金融機関が軒を並べ、海岸線には移出入の物資を保管する石造倉庫が並び、仕事を求める人々が殺到する、ゴールドラッシュさながらの活況が出現しました。

2 経済の「血液」金融が生んだ北日本随一の都市

鉄道と港の整備により物流拠点となった小樽は、明治末期に日露戦争の終結により、多くの商社、金融機関が進出し、最盛期には25の銀行が活躍した金融のまちとなりました。色内銀行街では、日本の近代建築を象徴する遺産が文化施設などに活用され、さながら「近代建築の博物館」として残り、往時の小樽を反映する象徴となっています。

小樽港は終戦後も復興の拠点となっていました。エネルギーが石炭から石油に変わる中で、昭和40年代には取扱貨物が大きく減少しました。小樽では、経済再生のために倉庫を取り壊し、運河を埋め立てて道路にする計画が決定されました。しかしそのとき、「まちの記憶」を守ろうとする保存運動が起こり、歴史を生かす新たな展望と具体的な代替道路案が提案されました。この小樽運河保存運動は、その後の日本のまちづくり運動の先駆けとなりました。



日本銀行旧小樽支店(色内銀行街)
小樽市提供

3 歴史を生かすまち・小樽の新たな鼓動

運河をまちのシンボルとして蘇らせ、まちづくりに生かし、遺産の魅力を伝える新しい活用の模索は、今もまちの至る場所で起きています。小樽は終戦後、高度経済成長の衰退期にも民の力で再生したまちです。小樽に生きる人々は、遺産に新たな命を吹き込み、もう一度北海道の「心臓」の鼓動を動かそうとしています。

確認問題

小樽市にある明治から昭和中期までの銀行建築が密集する地区で、日本の近代化を象徴する観光スポットは何と呼ばれていますか？

a 色内銀行街

b 北浜銀行街

c 岡崎銀行街

解答欄に記入してください

ポータルサイト

